

平成 21 年度茨城県放射線管理士部会研修会

開催報告

期日： 平成 21 年 5 月 10 日

会場： 茨城県立医療大学 中講義室



「X線撮影における空間線量分布の評価」

茨城県立医療大学 佐藤 斉

放射線診療ではX線照射中に医師，看護師，診療放射線技師などの放射線診療従事者がX線診療室内で作業する場合がある。また，移動型X線装置による病室撮影や手術室での透視撮影の実施などにより，医療スタッフがX線照射場に身を置く場合も多い。

そのようなX線照射場における空間線量分布の状況は，放射線診療作業の計画・設計や放射線安全評価を適確に行う上で重要な情報となる。一般的には空間線量分布はサーベイメータなどによる測定結果から求められているが，被曝線量の推定に適した空間線量分布を得るためには，ほぼ等間隔に多数の測定データが必要となる。

ここでは，計算による空間線量分布の求め方と実測データとの対比，データの解釈と安全評価に関する具体例を示した。



「原子力災害時の対応について」

筑波大学附属病院 平野 雄二

日本の原子力施設で大規模な原子力事故が起こるとは、考えにくい事です。しかし万一、原子力施設で事故がおき、放射線または放射性物質が環境に放出された場合、放射性物質から出ている放射線からの外部被ばく、あるいは放射性物質などの吸入などによる内部被ばくを周辺住民ができるだけしないようにすることが大変重要です。

初期被曝医療の目的は、周辺住民の被、および汚染状況を調べ、適切な処置をすると共に、住民の不安を軽減、解消する事にあります。

そのため、緊急被曝医療関係者は放射線・放射能に関して、正確な知識を習得し、訓練を受ける必要があります。

今回は、災害時における救護所活動について、説明を行った。



「平成 20 年度原子力防災訓練報告」

筑波大学附属病院 横田 浩

茨城県では、平成 11 年に起きた東海村ウラン燃料加工工場での臨界事故を受けて、事故の発生した 9 月 30 日には毎年 10 項目におよぶ原子力総合防災訓練を開催している。

このうちの緊急被ばく医療訓練には茨城県技師会に参加要請があり、避難所等に設置する救護所における住民等の放射能汚染検査要員として茨城県放射線管理士部会より 3 名を派遣している。

今回は、避難所で我々が担うスクリーニングチームの概要を説明し、臨界事故をきっかけとして整備された緊急時医療体制やオフサイトセンターを説明しながら実際に訓練に参加した感想を報告した。

